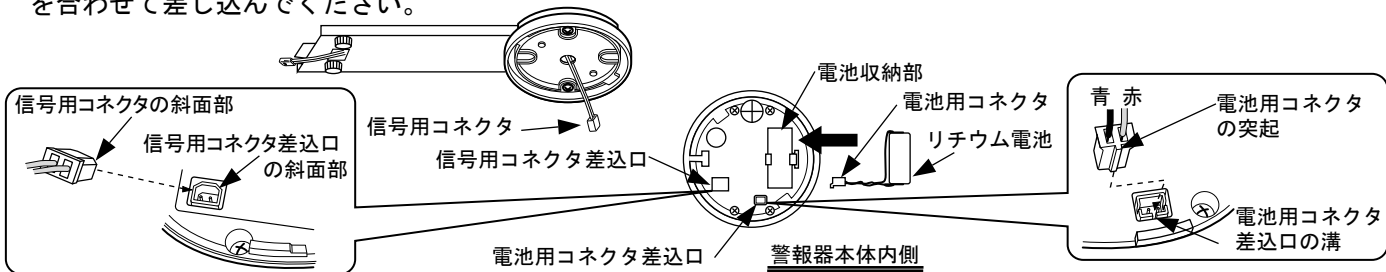
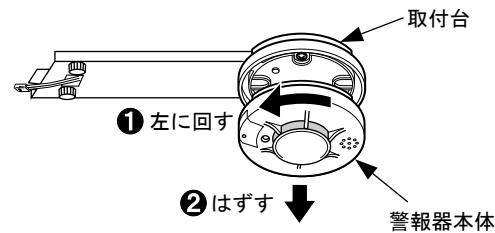


## 器具の取り付けかた

### 1. 警報器ユニットの取り付け

- ①警報器本体を左に回して、取付台から外してください。
- ②取り替えの目安として、警報器本体の側面のラベルに設置年月を記入してください。
- ③電池用コネクタ差込口の溝に電池用コネクタの突起を合わせて差し込んでください。  
ご注意：電池取付け後約5秒間は機能しません。
- ④信号用コネクタの斜面部と信号用コネクタ差込口の斜面部を合わせて差し込んでください。



- ⚠ 注意**
- ・電池は必ず付属のものを使用する。\* 付属以外の場合故障の原因となります。
  - ・電池用コネクタ及び信号用コネクタを確実に差し込む。\* 発熱・動作不良の恐れがあります。

- ⑤警報器本体を取付台にはめてから「カチッ」と止まるまで右に回して取り付けてください。



**注意**

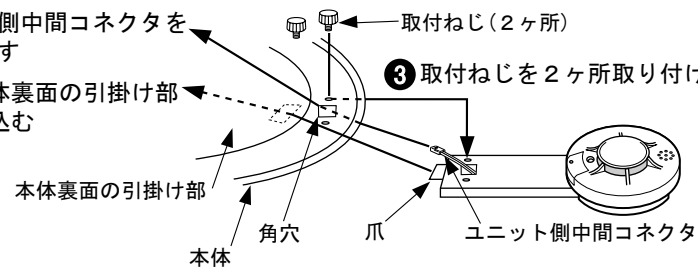
- ・コネクタの電線をはさみ込まないように注意する。
- ・\* 発熱・動作不良の恐れがあります。
- ・警報器本体を取り付けるときは外周を持って取り付ける。
- ・\* 他の部分を持って取り付けた場合、故障の恐れがあります。
- ・落下させたものは取り付けない。
- ・\* 内部破損の恐れがあります。
- ・取付台への固定を確実にする。
- ・\* 落下によるケガの原因になります。

- ⑥警報停止ボタンを押して「ピピッ、ピーピーピー」と鳴ることを確認してください。

- ⑦警報器ユニットから取付ねじ（2個）をはずしてください。

- ⑧ユニット側中間コネクタを本体の角穴に通し、警報器ユニットの爪を本体裏面の引掛け部に差し込んだ後、取付ねじ（2個）でしっかりと取り付けてください。

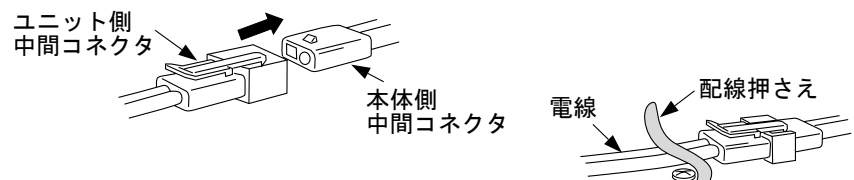
- ①ユニット側中間コネクタを角穴に通す
- ②爪を本体裏面の引掛け部に差し込む
- ③取付ねじを2ヶ所取り付ける



- ⚠ 必ず守る**
- 確実に取付ねじで取り付ける。  
\* 警報器ユニットの落下および落下によるケガの原因となります。

- ⑨本体側中間コネクタとユニット側中間コネクタをしっかりと接続した後、電線が垂れ下がらないように配線押さえでしっかりと押さえてください。

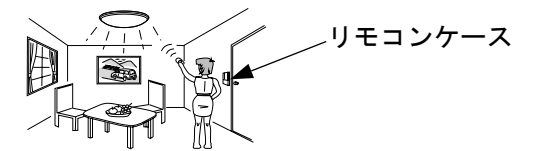
- ⊘ 禁止**
- コネクタや電線をむりやり引っばらない。  
\* 電線が断線し、感電、故障の原因となります。



## リモコンケースの使いかた

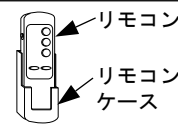
- リモコンをなくさないように、リモコンの置き場所として壁などにリモコンケースを取り付けてご使用ください。

リモコンを使用するときは、リモコンケースから取り出し、器具に向けて操作してください。



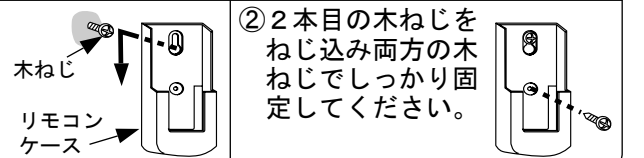
### 使用状態

- リモコンケースの取り付け場所は、部屋の出入り口付近が便利です。



### リモコンケースの取り付けかた

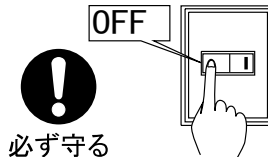
- ①リモコンケースの位置を決め、付属の木ねじ1本を壁面に仮止めしリモコンケースをひっかけてください。
- ②2本目の木ねじをねじ込み両方の木ねじでしっかり固定してください。



## 保守とお手入れ 常に明るくご使用いただくために定期的にお手入れをしてください。

- お手入れの際や、蛍光ランプなどの交換の際は、必ず電源を切る。

\* 電源を切らないと感電の原因となります。



必ず守る

### ■器具のお手入れ



必ず守る

- 器具が虫やほこりなどで汚れたら、乾いた柔らかい布で軽くはたき落とす。汚れが落ちない場合は、柔らかい布に石けん水を浸して、よくしぼったのちふき取り、乾いた柔らかい布で仕上げる。
- \* 石けんとは天然油脂を原料としたものです。（商品表示が“石けん”であることを確認してください。）

### ■みがき粉・ベンジン・合成洗剤・化学ぞうきんでふいたり熱湯や殺虫剤をかけない。



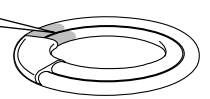
禁止

- \* 割れ、傷、変色および落下によるけがの原因となります。



### ■蛍光ランプの交換時期について

- 口金付近が全周にわたって黒ずみ明るさが低下しましたら寿命ですので、新しい蛍光ランプとお取り替えください。
- なお、調光で点灯した場合、比較的早い時期に黒い斑点が発生することがありますが、所定のランプ照度や寿命性能は満足しますので、そのままご使用ください。



日立パールミック85形をお求めください。

### ■蛍光ランプ取り扱い上のご注意



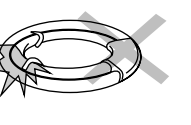
接触禁止

- 点灯中および消灯直後は、ランプが熱くなっているため、触らない。
- \* やけどの原因となります。



禁止

- ランプホルダーをランプに強く当てない。
- \* ランプが破損し、けがの原因となります。



### ■警報器のお手入れ

- 年に一度、水または中性洗剤を含ませて固く絞った布で警報器の汚れをふき取ります。警報器の煙流入口に触れないようにしてください。煙流入口に著しい汚れが付着している場合は煙を感知できないことがありますので警報器を交換してください。
- 警報器は高性能リチウム電池を使用しております。下記の警告を守り、安全に使用してください。



**注意**

- ・警報器を水洗いしない。警報器に水を入れない。
- \* 故障の原因になります。
- ・ベンジンやシンナーを使用しない。
- \* 故障の原因になります。



**警告**

- ・電池はお子様の手の届かない所で処理する。
- ・充電しない。ショートさせない。強制放電させない。半田付けしない。(+)(-)を逆に接続しない。
- \* 発火、発熱、破裂、の恐れがあります。
- ・加熱しない。分解しない。加圧変形させない。他の用途に使用しない。カバーのフィルムは外さない。
- \* 発火、発熱、破裂、の恐れがあります。
- ・漏液や異臭がするときは直ちに火気から離す。 \* 引火のおそれがあります。
- ・電池を導電性のある液体に入れない。 \* 可燃性ガス発生のおそれがあります。
- ・電池を火中、水中に投げ込まない。 \* 発火、破裂の恐れがあります。

### ●警報器を廃棄するときのお願い

- 警報器本体・リチウム電池などを廃棄する場合はお住まいの地域の条例などに従って処理してください。（リチウム電池に水銀は含まれておりません。）



**警告**

- ・電池は、(+) (-) が短絡しないようにテープなどで絶縁する。
- \* 発火・破裂の原因となります。